

序 説

胸部画像において、結節や腫瘍の良・悪性の鑑別は常に読影者の重要課題である。初学者にとっても同様であり、今回は胸部画像のなかでも「胸部腫瘍」をテーマとした。取っ付きにくい印象のびまん性肺疾患に比べて、結節性病変のほうが出現や増大の有無など、ある程度の所見はとらえやすく、読影しやすい印象があるかもしれない。しかし、筆者を含め漫然と読影していて痛い思いをした方も多いのではないだろうか？ 一方、エキスパートの的確で詳細な読影により、患者さんの将来が変わるような所見も見聞きしたこともあるかもしれない。

本誌の「地力が伸ばせる」シリーズの企画は初学者に向けた側面もあるシリーズである。そこで、より実践的な特集となるように日々多数の症例の読影を、若い先生方への指導も行いながら格闘されている先生方を中心に執筆をお願いした。肺腫瘍や縦隔腫瘍・胸膜腫瘍の読影時におさえておきたい画像診断に関する事項や、読影や臨床医とディスカッションするうえで最低限必要となる肺腫瘍の病理所見・知識を解説いただいた。また、「胸部腫瘍」をテーマとするが、背景肺の状態や経過は診断や治療戦略のうえで非常に重要であり、限られた誌面ではあるが既存肺病変や治療後変化に関しても肺癌診療におけるポイントを含め解説いただいた。

初学者にとってはもちろん知っておきたい内容であり、経験のある先生方々にとっても「胸部腫瘍」およびその経過を読影するうえで考えるべきことを再確認できる内容を目指した。明日からの読影に役立てば幸いである。

室田真希子